

巻頭言

■「舎短取長」への思い



徳島大学薬学部長

佐野茂樹

Shigeki Sano

教 授室のデスクから扉の方へ視線を移すと、「舎短取長」と達筆でしたためられた色紙が目飛び込ん

できます。「角市」という署名に「櫻井」の落款印が押された古びた色紙は、すでに他校に統合され閉校となってしまう母校、守口市立土居小学校の昭和48年3月19日の卒業式で、当時の櫻井角市校長から卒業生全員がいただいたものです。「舎短取長」という四字句は、中国の正史の一つで前漢時代の歴史を記した『漢書』の「芸文志」の中の一節「若能修六藝之術、觀九家之言、舎短取長、則可以通萬方之略矣（もし能く六芸の術を修めて、九家の言を觀て、短を捨て長を取れば、則ち以って万方の略に通じたといえる）」を出典とし、その意味は欠点や短所を捨てて美点や長所を選びとることとされています。もちろん容易にで

きることはありませんが、どういうわけかこの色紙を大切に携えて45年の歳月を過ごしてきました。そして、印象派の画家として知られるルノワールの言葉「百の欠点を無くしている暇があるなら、一つの長所を伸ばした方がいい」に辿り着きました。人間はだれしも不完全な存在ですが、何が長所かを見極め、そして伸ばし活かすことが肝要です。『漢書』の「芸文志」には、そうすれば「どのような事態にも適切に対処することができる」と記されています。自らにとっての、そして徳島大学薬学部にとっての「舎短取長」とは何かを日々自問しながら、未来に向かって確かな道を切り開いていければと願っています。

■薬物乱用防止功労者徳島県知事表彰を受賞して

臨床薬学実務教育学分野 助教

阿部真治

Shinji Abe

徳 島大学薬学部では、平成24年度より徳島県から学生および教員が委嘱を受け、徳島県薬物乱用防止指導員として薬物乱用防止啓発活動を継続して行っています。その取り組みが認められ、平成29年11月27日に徳島県知事より薬物乱用防止功労者徳島県知事表彰を受賞いたしました。

麻薬等の薬物乱用は大きな社会問題となっており、大学生を含む若年層にも広がりを見せています。薬の専門家

を養成する本学部では、1年次に徳島県薬務課が開催する薬物乱用防止講習会を受講し、薬物乱用の危険性について自らの理解を深めるとともに、毎年1年次および2年次の学生が薬物乱用防止指導員として徳島県から委嘱を受けています。委嘱を受けた学生指導員は、大学祭において一般指導員とともに来場者に啓発資料を配付し、クイズを出題・解説することによって、地域住民に対する薬物乱用防止啓発活動に携わっています。

近年、特に薬局薬剤師は地域に密着し、身近な薬の専門家として薬物乱用防止活動を含む薬に関連した啓発活動を地域住民に向け行うことが求められています。本学部の取り組みは、学生が薬の専門家としての自覚を養うと

もに、将来薬剤師として活躍する上で貴重な経験を得る機会となっています。今後も本学部では学生を主体とした薬物乱用防止啓発活動を継続して行うことで、地域に貢献するとともに、社会から必要とされる薬の専門家の養成に努めていく所存です。



後藤田副知事から表彰を受ける南川副学部長